

2013年12月期 第2四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社
代表取締役社長
吉野 公一郎

JASDAQ

証券コード:4572

前年同期より業績は大幅改善

- ✓ 売上高は、対前年同期比 33.1%増
- ✓ 営業損益は、売上高の増加、売上原価率の低減等により、前期より 66百万円の改善
- ✓ 経常損益は、営業損益の改善により、前期より 70百万円の改善
- ✓ 当期純損益は、経常損益の改善により、前期より 73百万円の改善

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2013年12月期第2四半期実績 (a)	341	△169	△147	△151
2012年12月期第2四半期実績 (b)	256	△236	△218	△224
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	+84	+66	+70	+73
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	+33.1%	—	—	—
2013年 計画値 (e)	1,155	4	28	23
対通期計画 進捗率 (%)	29.6%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2013年2月8日発表の通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

(百万円)

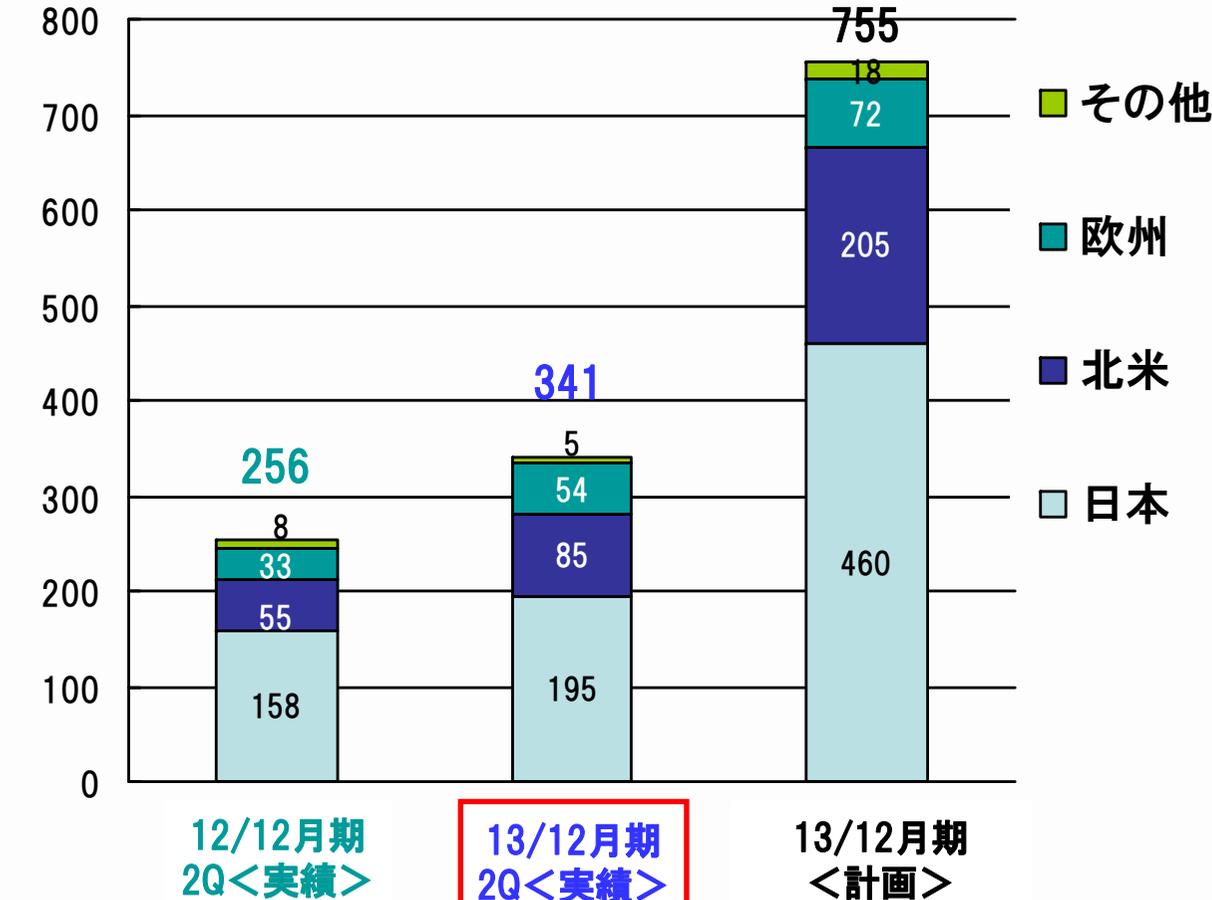
	売上高			営業利益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
2013年12月期 第2四半期実績 (a)	341	—	341	101	△271	△169
2012年12月期 第2四半期実績 (b)	256	—	256	13	△249	△236
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	+84	—	+84	+88	△21	+66
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	+33.1%	—	+33.1%	668.1%	—	—
2013年12月期 通期計画 (e)	755	400	1,155	187	△182	4
通期計画に対する 進捗率 (%)	45.2%	—	29.6%	54.2%	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2013年2月8日発表の通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」の値は損失を計上している場合数値を表示しておりません。

地域別売上高(連結)



為替レート(US\$): 79.82円
 海外売上比率: 38.1%

98.78円
 42.9%

80.00円
 39.1%

創薬支援全体の売上は
 前年同期比 **33.1%増**

- ・**国内**は前年同期比 **22.8%増**
 ⇒プロファイリング・スクリーニングサービスの大幅増加
 (小野薬品工業からの大規模キナーゼスクリーニングサービスの提供は順調に推移)
 ⇒RPPAサービスの立ち上がり
- ・**北米**は前年同期比 **54.3%増**
 ⇒プロファイリング・スクリーニングサービス、セルベース・アッセイの大幅増加
 ⇒円安ドル高の影響
 (顧客がメガファーマからバイオベンチャーにシフト。販売ネットワークの再構築が結果として出ている)
- ・**欧州**は前年同期比 **64.2%増**
 ⇒セルベースアッセイ売上大幅増
 ⇒キナーゼタンパク質売上も増加
- ・**その他**は前年同期比 **32.1%減**
 ⇒タンパク販売の低迷

当第2四半期累計期間に当社グループと取引のあった顧客数

(単位:顧客数)

	国内顧客	北米顧客	欧州顧客	その他	合計
2013年12月期 第2四半期 (A)	54	62	42	11	169
2012年12月期 第2四半期 (B)	48	63	44	12	167
増減 (A)-(B)	+6	△1	△2	△1	+2
(参考) 2012年12月期通期	63	82	56	14	215

(注1) 各期において売上を計上した顧客数を表示しております。

(注2) 同一顧客に対して複数回売上が計上された場合も1顧客として計算しております。

(単位:百万円)

		2013年12月期 第2四半期累計	2012年12月期 第2四半期累計	2012年12月期 通期
研究開発費	創薬支援事業	0	0	2
	創薬事業	205	181	374
	計	205	182	376
設備投資		6	37	38
期末人員(連結)		54人	51人	52人

(内訳)

研究開発費:化合物の非臨床試験費用(化合物の最適化、高次評価及び前臨床費用並びに創薬基盤技術の強化)

設備投資 :本社電話設備更新、研究開発用の研究機器

(単位:百万円)

	2013年12月期 第2四半期末	2012年12月末	増減額	増減理由
流動資産	925	913	12	
現金及び預金	666	654	11	
その他	259	258	1	棚卸資産+18、売掛金△5、その他△8等
固定資産	230	203	26	投資有価証券(クリスタル・ゲノミクス社)増等
資産合計	1,155	1,116	39	
流動負債	102	109	△7	1年内長期借入金△17、未払金+8等
固定負債	130	126	3	長期借入金△9、繰延税金負債+13等
負債合計	232	236	△3	
純資産合計	923	880	42	資本金+78、資本剰余金+68、利益剰余金△151等
負債・純資産合計	1,155	1,116	39	

自己資本比率	78.4%	78.9%
一株当たり純資産	12,394円	12,098円
PBR(株価純資産倍率)	7.45倍	1.88倍
(参考)当社株価	92,300円	22,800円

(注)当社株価は東証(旧大証) JASDAQグロースにおける各四半期末日における終値に基づいております。

行使価額修正条項付き第14回新株予約権の発行(平成25年5月29日公表) 及びその行使状況について

発行日	平成25年6月17日
発行価額	1株当たり 1,350円
発行数	12,000個(12,000株)
発行価額の総額	16,200,000円
割当先	メリルリンチ日本証券株式会社
行使期間	平成25年6月18日 ~ 平成27年6月17日
当初行使価額	133,500円(1株当たり)
当初調達資金	1,605,200,000円(手取概算額)
調達資金の主な使途	当社創薬研究テーマに係る非臨床試験及びその付帯費用(非臨床試験の高度化、迅速化) 1,405百万円
	新たな研究テーマを創出するための研究開発費用及びその付帯費用 200百万円
平成25年7月末までの行使状況	行使累計株式数 6,349株 (対発行総数割合:52.9%) 累計行使価額 596,614千円

米国ですでに承認販売されている低分子キナーゼ阻害薬(計22品目)

商品名	一般名	製薬企業	代表的な適応疾患	米国FDA承認年
グリベック	イマチニブ	ノバルティス	慢性骨髄性白血病	2001
イレッサ	ゲフィチニブ	アストラゼネカ	非小細胞肺癌	2003
タルセバ	エルロチニブ	ジェネンテック/OSI	非小細胞肺癌	2004
ネクサバル	ソラフェニブ	バイエル/Onyx	腎細胞がん	2005
スーテント	スニチニブ	ファイザー/Sugen	腎細胞がん	2006
スプリセル	ダサチニブ	ブリistolマイヤーズ	慢性骨髄性白血病	2006
タイケルブ	ラパチニブ	グラクソスミスクライン	乳がん	2007
タシグナ	ニロチニブ	ノバルティス	慢性骨髄性白血病	2007
ヴोटリエント	パゾパニブ	グラクソスミスクライン	悪性軟部腫瘍	2009
ザクティマ	バンデタニブ	アストラゼネカ	甲状腺髄様がん	2011
ゼルボラフ	ベムラフェニブ	ロシュ, Genentech/Plexxikon	メラノーマ	2011
ザーコリ	クリゾチニブ	ファイザー	非小細胞肺癌	2011
ジャカフィ	ルクソリチニブ	ノバルティス/Incyte	骨髄線維症	2011
インライタ	アキシチニブ	ファイザー	腎細胞がん	2012
ボスリフ	ボスチニブ	ファイザー/Wyeth	慢性骨髄性白血病	2012
スチパーガ	レゴラフェニブ	バイエル/Onyx	転移性大腸がん	2012
ゼルヤンツ	トファシチニブ	ファイザー	関節リウマチ	2012
コメトリク	カボザンチニブ	エクセリクシス	甲状腺髄様がん	2012
Iclusig	ポナチニブ	アリアド	慢性骨髄性白血病	2012
Tafinlar	ダブラフェニブ	グラクソスミスクライン	メラノーマ	2013
Mekinist	トラメチニブ	グラクソスミスクライン/JT	メラノーマ	2013
Gilotrif	アファチニブ	ペーリンガーインゲルハイム	非小細胞肺癌	2013



グリベック



タルセバ



ゼルボラフ



ゼルヤンツ

(注)FDAとは、米国食品医薬局(Food and Drug Administration)のこと。日本の厚生労働省にあたる機関。色網掛けは日本で承認販売済の薬。

- ▶ ガンを継続的に重点領域とする
- ▶ ライセンスアウト活動を通じて、研究への投下資金の回収を目指す

主な研究パイプラインの研究ステージ

2013年6月末現在

キナーゼ (対象疾患)	非臨床	臨床試験 (治験)	承認 申請	上市
TNIK (大腸ガン)				
CDC7/ASK (ガン)				
BTK (免疫炎症疾患、ガン) リウマチ				
DYRK1A (神経変性疾患) アルツハイマー病				

研究パートナー



当社独自研究テーマ



(百万円)

1200

1000

800

600

400

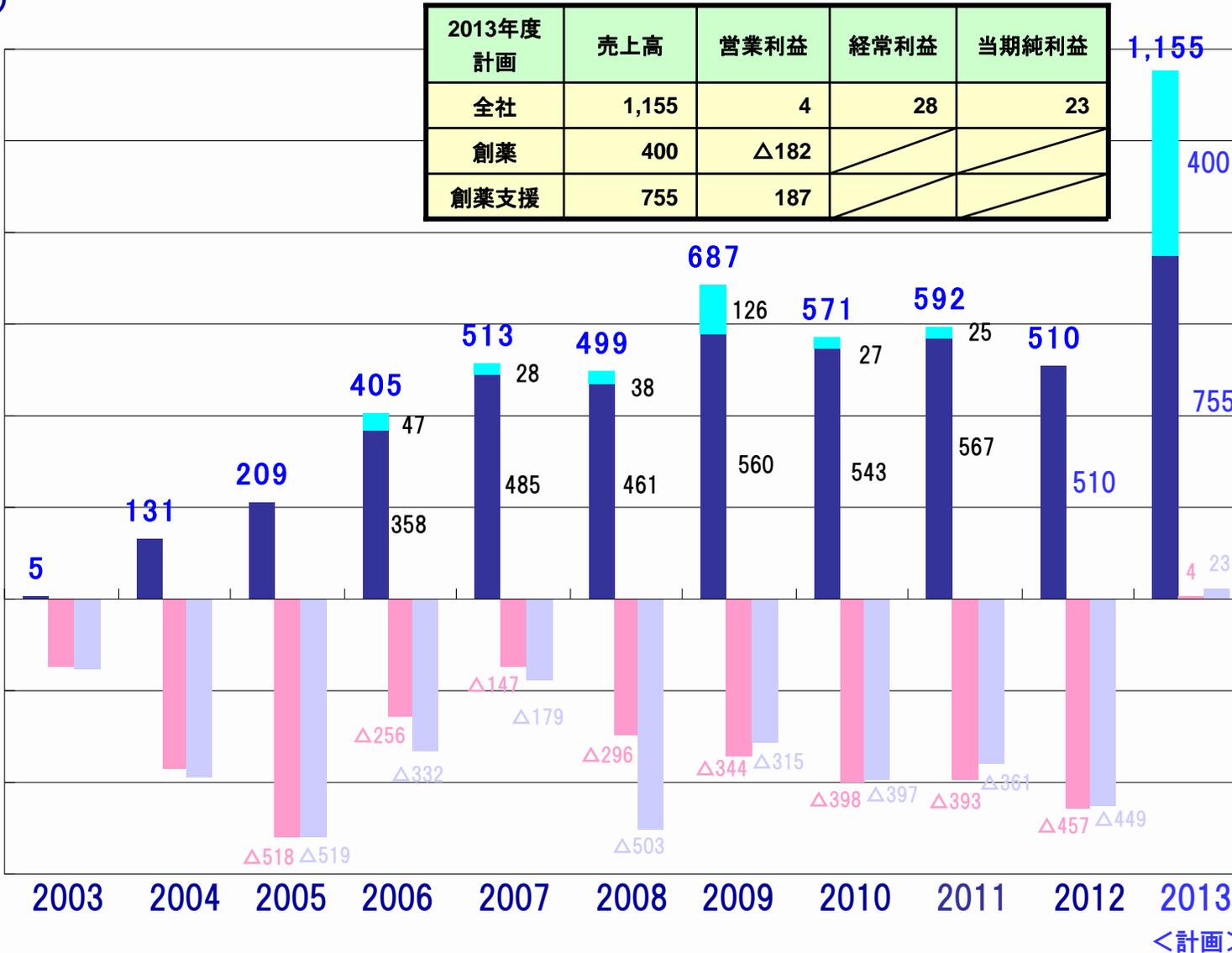
200

0

-200

-400

-600



(創薬支援事業)

- 北米地域での売上拡大
 - ✓ バイオベンチャーへのシフト
 - ✓ 新規顧客の開拓
- オンリーワンサービスの売上拡大
 - ✓ RPPAサービス
 - ✓ その他セルベースアッセイ(ACD社、NTRC社、CAI社等)
- 学術サポート力の強化、ならびに、キナーゼに関する創薬基盤技術に基づく顧客へのトータルソリューションの提供

(創薬事業)

【研究領域】

- SBIバイオテック株式会社と共同研究で進めているCDC7阻害剤の前臨床化合物について、様々ながん種に対し、有効性、安全性の評価を進めている
- 免疫炎症疾患及び血液ガンを標的疾患とするBTK阻害剤プログラムについては、引き続き前臨床候補化合物の選定を進めており、高次評価を実施中である
- 独立行政法人国立がん研究センターとの共同研究で進めているTNIKキナーゼ阻害剤プログラムは、ガンの根治を目標とした画期的な薬剤の創製に向けて高次評価の実施中
- 株式会社キノファーマとの共同研究テーマ(DYRK1Aキナーゼ阻害剤、神経変性疾患)との共同研究においても、ステージアップを目指して、引き続き共同研究中である
- 北里大学北里生命科学研究所との新規マラリア治療薬のテーマ、ラクオリア創薬株式会社との新規キナーゼ阻害薬の共同研究についても、順調に推進中

【導出活動】

- 当社研究テーマである4つのキナーゼ阻害剤プログラムにおいて、複数の製薬企業等と導出交渉中。平成25年12月期中の導出を目指す。

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665

<http://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。